

式辞 令和7年度第2学期始業式

長い夏休みが終わりました。大きな事故無く、皆さんが本日元気に登校してくれていることを大変嬉しく思います。

一学期の終業式に話したことを覚えてくれているでしょうか？話の中で、何かを決めるということは大変苦勞する。悩む。そんな時はどうするか？まずは判断材料を集めることに 全力を尽くしましょう。この夏休みは絶好の期間ですという話をしたと思います。皆さん、この夏休みをどのように過ごしたでしょうか？改めて振り返ってみてください。この考え方は、夏休みに限ったものではありません。日常の中で生かしてほしいと思っています。

二学期は、体育祭や文化祭、修学旅行などの学校行事がありますが、いずれも一人では成し遂げられないものばかりです。人と人々が協力し合って何かを成し遂げることは、人間にしかできない大変高等な作業でもあります。自分の意見だけを押し通しては、前には進まないことも多いと思います。相手を思いやる言動が大切になってきます。

皆さんは、聖徳太子を知っていますか？福沢諭吉の前の1万円札の肖像画にも使われていたことでも有名です。この聖徳太子が制定したとされている「十七条憲法」は、日本で最初の憲法としても有名です。その内容については、単なる規則というよりは、人々に対する道徳的な指針に近いものがあります。

その「十七条憲法」の第10条の一部を紹介します。

「我必ず聖（ひじり）にあらず、彼必ず愚かにあらず・・・」

解釈すると、私が一方的に正しいということも、相手が一方的に間違っていることもない。ともに間違いだらけの人間なのだから、仲間と仕事をするときは、謙虚に人の意見に耳を傾け、互いに話し合い、お互いの不足を補い合いながら、良いところを広げるようにしよう。という非常に深い倫理観を述べています。これを西暦604年、今から1400年以上も前に考えられていたということも驚きですね。

先ほど述べたように、二学期は皆で協力し合って物事を成し遂げる

行事が非常に多い学期です。

「我必ず聖にあらず、彼必ず愚かにあらず・・・」

どうか皆さん、この言葉を胸に、仲間と力を合わせて二学期を実りあるものにしてください。

令和7年8月29日

愛媛県立北条高等学校長 菊池 正敏